

彙報

日原利國教授の御逝去

会告

京都大学文学部教授、文学博士、日原利國先生は、昭和五十九年六月二十一日午前五時十五分、大阪市西区の日生病院で逝去された。享年五十六歳。

先生は山梨県塩山市の御出身。昭和二十八年三月京都大学文学部哲学科を卒業、しばらく大学院で研鑽を積まれたのち、京都市立日吉ヶ丘高校教諭等を経て、昭和三十六年愛知学芸大学に奉職された。以後、昭和四十六年大阪大学文学部助教授に遷られ、同四十八年教授に昇任、そして同五十八年に京都大学文学部に配置換となり、中国哲学史講座を御担任になった。この間一貫して中国哲学史研究に邁進されるとともに、中国古典に対する深くかつ広い学識によつて学生の教育指導にあたられ、多数の有能な学徒を育成された。

先生の御専門は中国古代中世哲学史であるが、わけても漢代思想に深い関心をよせられ、「塩鉄論」や「白虎通義」等に関する一連のすぐれた論文を発表された。その後、これら漢代思想文献の根底に春秋公羊学が存することを発見してよりは、その研究の主力を春秋公羊伝に注がれた。その成果が学位論文ともなった「春秋公羊伝の研究」(昭和五十一年)であり、そこにおいては、春秋公羊伝に関するあらゆる問題が中国哲学史全般に対する幅広い展望のもとに精緻に考察されている。同書によ

つて先生は経学の最高峰たる地位を不動のものとされたのであるが、なおたゆまず研究を続けられ、漢代のみならず中国思想の本質を解明する論考を陸続と発表するとともに、中国法律史・書道史についても未踏の業績を挙げられた。

その一方で先生は学問成果を広く一般社会に普及することにも意を払われた。日本はもとより世界にもほとんど類を見ない「中国思想辞典」(昭和五十九年)を編纂されたのも、その熱意の一つの現れである。

かように先生の学問は未だ発展途上にあり、その真の成熟が期待されていたところであるのに、この春、突然病を得、わずか一月足らずの入院で忽焉として天堂に昇つてしまわれたのである。御本人の無念さは言うまでもなく、学界にとつてもかけがえのない方を失った損失は計り知れない。

本学会においても、昭和五十年に「春秋」の夷狄観」の題で御講演いただいた他、「哲学研究」のこの五五〇号にも御寄稿いただいている。病床にあつてなおその原稿をしたためておられたという。

厳格な中にも思いやり溢れる暖い御人柄を思えば、思慕追悼の念はいや益すばかりである。謹んで御冥福をお祈り申し上げる。烏呼、哀しいかな。尚くば饗けよ。

昭和五十九年七月

京都哲学会

二 京都哲学会委員の異動

昭和五十九年四月一日をもって

山本耕平氏(哲学・西洋哲学史「中世」講座助教授着任のた

め)が、京都哲学学会委員に就任された。

三 京都哲学学会公開講演記事

昭和五十八年度の京都哲学学会公開講演会は、十一月五日(土)午後一時半から、京都大学文学部第七講義室において、左記の如く行われた。

一、中国古典における注釈の思想

京都大学助教授 池田秀三氏

一、神秘主義と形而上学

——経験と自覚の問題をめぐって——

京都大学教授 上田閑照氏

講演会は盛会であり、また、終了後、楽友会館において、池田、上田両氏を囲んで、約二十名の会員が晩餐を共にしつつ、討論、歓談のひとつをすごした。

四 会員の御逝去について

左記の京都哲学学会会員の方々がお亡くなりになっておられる。謹んで御冥福をお祈り申し上げる。(かつこ内はお亡くなりの日、最終勤務先、御遺族の住所)

樋元和一

阿部孫四郎

高橋昭二

八一—三四五)

田中熙

武田弘道

(右判明したもののみ。会員の消息についてお気づきの方は、京都哲学学会宛おしらせ下さい。)

※ 本号彙報に掲載予定の、京都大学文学部哲学科卒業論文題目、同修士課程修了論文題目、博士後期課程学修者氏名(いずれも昭和五十九年三月)、ならびに京都大学文学部哲学科講義題目(昭和五十九年度)については、紙数の都合により次号に掲載いたします。

また、第五百四十九号に本特集号への掲載を予告いたしました清水善三氏「曼荼羅の構成(完)」につきましては、都合により次号以降に掲載いたします。